2003.11 文楽 BUNRAKU
ユネスコ無形文化遺産
Intangible Cultural Heritage

文化庁

# 人形浄瑠璃 文楽 BUNRAKU

初めてでも楽しめる解説・字幕付き！

**演目【夜の部】**

近頃河原の達引（ちかごろかわらのたてひき）
四条河原の段（しじょうがわらのだん）
堀川猿廻しの段（ほりかわさるまわしのだん）

**演目【昼の部】**

二人三番叟（にんさんばそう）
絵本太功記（えほんたいこうき）
夕顔棚の段（ゆうがおだなのだん）
尼ケ崎の段（あまがさきのだん）

写真：青木信二

**電光掲示板による字幕付きですので、初めて鑑賞する方でもお楽しみいただけます。** ※席によっては字幕が見えにくい場所もございますので、あらかじめご了承ください。

## 令和6年 10月13日（日）

【昼の部】12:00（終演予定 14:25）
【夜の部】16:00（終演予定 18:15）
※いずれも開場は開演時間の30分前

**会場**
Niterra日本特殊陶業市民会館 ビレッジホール
•JR東海道本線・中央本線「金山駅」下車 北へ徒歩5分　•名鉄名古屋本線「金山駅」下車 北へ徒歩5分
•地下鉄名城線「金山駅」下車 6番出口より北へ徒歩3分（地下連絡通路あり）

**チケット発売**
【友の会会員先行発売】……7月10日（水）9:00～
【一般発売】……7月17日（水）9:00～

**チケット取扱**
■名古屋市文化振興事業団チケットガイド
TEL 052-249-9387（平日9:00～17:00 郵送可）
※受付窓口が混雑するため、7月10日（水）はチケットガイドでは電話予約のみの受付となります。
■芸術創造センター、青少年文化センター、市内文化小劇場等、事業団が管理する文化施設窓口（土日祝日も営業）
※工事休館等がありますので、ウェブサイトでご確認ください。
■名鉄ホールチケットセンター
（一般のみ取り扱い）
TEL 052-561-7755
（10:00～18:00）
■電子チケット
（一般のみ取り扱い）
teket

**料金【全指定席】**

| 一般 | | |
|---|---|---|
| S席 | 〈一階席前方〉 | 4,800円 |
| A席 | 〈一階席後方〉 | 4,500円 |
| B席 | 〈二階席〉 | 2,000円 |

文楽ビギナーのために、お求めやすい席をご用意！

| 友の会会員・大学生以下・障がい者等 | | |
|---|---|---|
| S席 | 〈一階席前方〉 | 4,300円 |
| A席 | 〈一階席後方〉 | 4,000円 |

※事業団友の会会員（前売りのみ）、大学生以下の方、障がい者手帳等をお持ちの方の割引販売は、事業団チケットガイド、または事業団が管理する文化施設窓口での販売です。購入時に、会員証、学生証、障がい者手帳等をご提示ください。障がい者の方は、ご本人と付添1人まで割引価格でお求めいただけます。
※他の割引との併用はできません。
※未就学児の入場はご遠慮ください。

＜主催＞ 公益財団法人 名古屋市文化振興事業団 ／ 公益財団法人文楽協会 ／ 日本特殊陶業株式会社 ／ Niterra日本特殊陶業市民会館
＜助成＞ 文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動））｜独立行政法人日本芸術文化振興会 ／ 朝日新聞文化財団

人形浄瑠璃 文楽 BUNRAKU

# 夜の部

# 昼の部

解説（あらすじを中心に）竹本聖太夫

## 二人三番叟

三番叟　豊竹亘太夫
三番叟　竹本碩太夫
豊竹薫太夫
鶴澤清公
鶴澤燕二郎
鶴澤清方

（人形役割）
三番叟　吉田文哉
三番叟　吉田玉勢

## 絵本太功記 夕顔棚の段

豊竹希太夫
鶴澤清馗

## 尼ケ崎の段

前　豊竹呂勢太夫
鶴澤清治
切　豊竹呂太夫改め豊竹若太夫
鶴澤清介

（人形役割）
母　桐竹勘壽
妻　さつき操　吉田勘彌
嫁　初菊　吉田一輔
旅僧実は真柴久吉　吉田玉輝
武智光秀　桐竹勘十郎
武智十次郎　吉田玉佳
百姓大ぜい
軍兵大ぜい

囃子　望月太明藏社中

解説（あらすじを中心に）豊竹薫太夫

## 近頃河原の達引

### 四条河原の段

伝兵衛　豊竹睦太夫
官左衛門　竹本小住太夫
勘蔵　竹本聖太夫
久八　竹本碩太夫
野澤勝平

### 堀川猿廻しの段

切　竹本千歳太夫
豊澤富助
ツレ　鶴澤燕二郎
切　竹本錣太夫
竹澤宗助
ツレ　鶴澤清公

（人形役割）
横淵官左衛門　吉田勘市
仲買勘蔵　桐竹亀次
井筒屋伝兵衛　吉田玉志
廻しの久八　吉田玉翔
稽古娘おつる　桐竹勘次郎
与次郎の母　吉田簑一郎
猿廻し与次郎　吉田玉也
娘おしゅん　豊松清十郎
駕籠屋大ぜい

囃子　望月太明藏社中

あらすじ

## 二人三番叟

能で特に神聖視される『翁』を義太夫節に移し、慶事に上演される『寿式三番叟』。その中から、二人の三番叟の舞を独立させました。義太夫節ならではの力強い響き。人形の躍動的な舞。足遣いの踏む足拍子と三番叟が振る鈴の音も心地よい、熱気あふれる舞台です。

## 絵本太功記 夕顔棚の段・尼ケ崎の段

明智光秀が京都の本能寺に宿泊中の織田信長を滅ぼした「本能寺の変」（1582）を題材とする時代物で、寛政11年（1799）、大坂の道頓堀若太夫芝居で初演。当時刊行中の読本（よみほん）『絵本太閤記』の人気を受けて、近松やなぎほかが合作し、発端に、1日を1段として、光秀が謀反を決意する6月1日から命を落とす13日までの13段が続く構成になっています。

忠臣光秀は、鬼の再来〟と恐れられる主君春長の悪逆を諫めて、度重なる屈辱的な仕打ちを受け、6月2日、ついに本能寺を襲撃。光秀にとっては万民を救うための天誅でしたが、母さつきは、主殺しなど断じて許せず、6日、逆賊との同居は汚らわしいと、ひとり京を去り、尼ケ崎へ。

謀反を知り、急遽、備中から軍勢を率いて都へと引き返す久吉。尼ケ崎の近くで待ち受ける光秀勢。10日、さつきのもとを訪れたのは、光秀の妻操と息子十次郎、その許嫁（いいなずけ）の初菊。そして、宿を乞う旅僧も。その正体を久吉と察し、様子をうかがう光秀に気づく老母。

討ち死覚悟の十次郎が、悲しみを胸に初菊との祝言をあげ、出陣したあと、旅僧は、さつきに勧められ、風呂へ。外から竹槍で突く光秀。ところが、中にいたのは母。主殺しの罪深さを思い知らせるため、わざと息子の手にかかったのです。そこへ味方の敗北を告げに戻った十次郎は、絶命寸前。一夜も添うことなく夫と死に別れる初菊、我が子を失う操、二人の慟哭…。光秀は、涙も束の間、天王山での決戦を久吉と約束するのでした。

兵庫県尼崎市を舞台とする「尼ケ崎」は、天下のための挙兵が家族に悲劇をもたらした光秀の苦悩と悲しみが胸に迫る、全編の山場です。

あらすじ

## 近頃河原の達引

### 四条河原の段・堀川猿廻しの段

京の二条河原での心中（1702?）で知られたおしゅん・伝兵衛に、四条河原での刃傷沙汰と、貧しい猿廻しが親孝行で褒賞されたことを絡めたとされる、三巻の世話物で、眼目は中の巻の「堀川猿廻し」。気はやさしくて臆病者、文字は読めなくても誠実に生きる猿廻しの与次郎を中心に、その日暮らしの貧しさの中、互いに思いやる家族と、その別れを描いています。天明2年（1782）、江戸の外記座で初演され、好評を博したこの段は、大坂で上演されたある時代物の猿廻しのくだりをもとにしたものですが、作者、成立等、作品全体についての確かなことはよくわかりません。

大名の御用を勤める伝兵衛は、相思相愛の祇園の遊女おしゅんに横恋慕した出入先の侍を殺してしまい、お尋ね者に。

おしゅんの兄、猿廻しの与次郎は、目の見えない、病身の老母を大切に世話する孝行息子。伝兵衛との関係で店からひそかに実家に戻された妹のことも、心配でなりません。母もまた同じ思い。伝兵衛が心中しに来たら…。二人は、おしゅんを死なせまいと、伝兵衛への離縁状を書かせ、一安心。

その夜、現れた伝兵衛に妹の手紙を突きつける与次郎。ところが、それは母と兄に宛てた書置きでした。あくまでも伝兵衛と死ぬ覚悟のおしゅん。残された家族の嘆きを思い、一人で死のうとする伝兵衛。けれども、大事な夫を見捨てては、女の道が立たないと、おしゅんは聞き入れません。

その思いに心動かされ、母は娘を伝兵衛と行かせることに。与次郎はめでたい猿廻しで二人を送り出すのでした。

「そりゃ聞こえませぬ伝兵衛さん」に始まるおしゅんのクドキや、悲しみの漂う猿廻し（華やかな旋律に乗せて、人形遣いが左右の手で一体ずつ猿を遣います）で有名な、人気演目です。

※出演者の急病や、やむを得ない事情により、代役もしくは演目を変更して上演する場合がございます。※開演中の写真撮影・録画録音ならびに携帯電話・スマートフォン等の使用は固くお断りいたします。

中止あるいは内容を変更する場合がありますので、お出かけ前に必ずウェブサイトやお電話にてご確認ください。
事業団ウェブサイト「重要なお知らせ」またはTEL：チケットガイド052-249-9387（平日9:00～17:00）